

令和5年度 学生の学修状況に関する調査報告について

【目的】

・本調査の目的は、学生に対する支援と指導のため、日常の学生の学修状況についての基礎的な資料を得ることである。

【方法】

1. 調査対象

・体育学部に所属する全学生を対象として調査を実施した。

2. 調査内容

・「学生の学修状況に関する調査」というアンケートを Google フォームにて作成し、調査に使用した。

・質問内容は以下の通りである。:

- ①基礎的情報： 性別、学年、学科
- ②授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
- ③授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
- ④大学での学習で最も力を入れていること
- ⑤高校3年時での授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
- ⑥高校3年時での授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
- ⑦卒業後の進路として最も希望していること

3. 調査の手続き

・調査期間は令和5年6月7日（水）～7月12日（水）である。
・1年生は各クラスの、2年生以上は学科又はコースのオリエンテーションで使用した Google クラウドワークス内で、「課題」として Google フォームの URL を配布、期日までの回答を依頼した。

4. 統計解析

・得られた結果は各学年及び学科に占める割合（%）で示した。
・各学年、学科および性別と質問項目をクロス集計し、 χ^2 検定を行った。有意水準は5%とした。 χ^2 検定で有意差がみられた項目についてはさらに残差分析を行い、どのセルに有意差がみられたかを明らかにした。

【結果】

1. 回答率について

・学科学年別の回答者数と回答率を表1と表2に示した。全体での回答率は73.6%となった。

・学年のその他は本調査においては4年としている。

表 1. 学科学年別回答者数 (人)

学科	1年	2年	3年	4年	その他	全体
体育	290	277	301	173		1041
健福	104	80	50	74	1	309
栄養	74	45	56	44		219
入情	26	28	17	21		92
現武	59	29	28	22	1	139
子教	35	23	25	11		94
全体	588	482	477	345	2	1894

表 2. 学科学年別回答率 (休学者を含む)

学科	1年	2年	3年	4年	全体
体育	87.1%	82.4%	82.2%	49.7%	75.3%
健福	99.0%	80.0%	70.4%	68.5%	80.2%
栄養	88.1%	69.2%	78.9%	57.9%	74.0%
入情	68.4%	50.0%	50.0%	45.7%	52.9%
現武	93.7%	60.4%	70.0%	41.5%	67.6%
子教	97.2%	82.1%	86.2%	28.9%	71.8%
全体	89.2%	76.1%	78.1%	51.6%	73.6%

2. 大学での学習時間と運動時間について

・学年別の自主的な学習時間（授業の予習と復習、資格取得や就職のための勉強など）についての結果を図1に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学年と自主的な学習時間には関連性があるといえる。残差分析の結果、1年生は30分未満の割合が有意に高く、4年生は3時間以上の割合が有意に高くなっている。

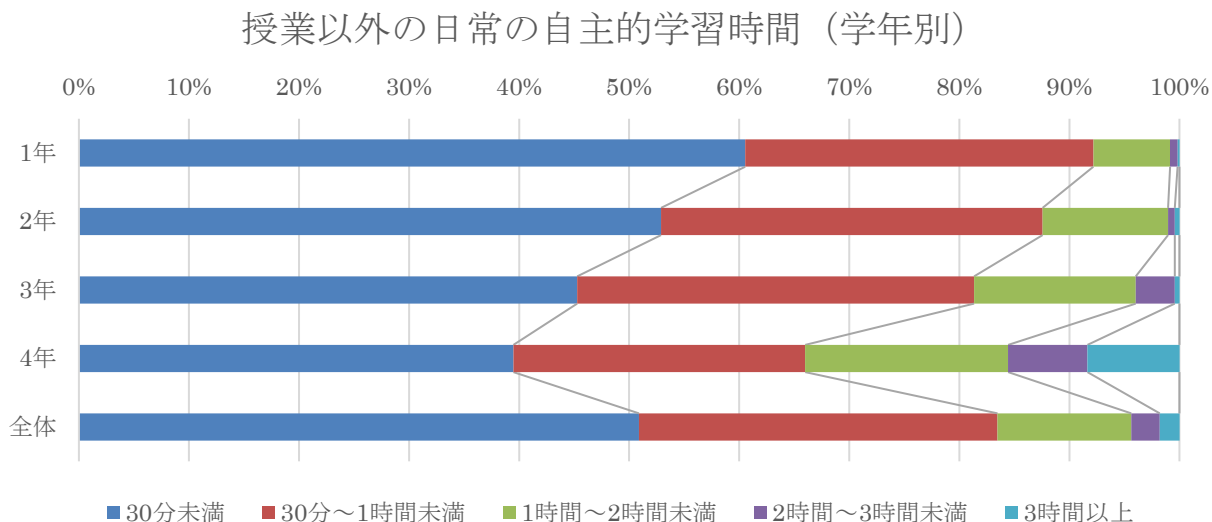


図1. 一日の自主学習時間（学年別）

・学科別の自主的な学習時間についての結果を図2に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学科と自主的な学習時間には関連性があるといえる。残差分析の結果、30分未満の自主的な学習をしている学生の割合は健康福祉学科とスポーツ情報学科が有意に低くなった。また、子ども運動学科は有意に高くなった。2時間～3時間自主的な学習をしている学生の割合は健康福祉学科とスポーツ栄養学科が有意に高くなった。

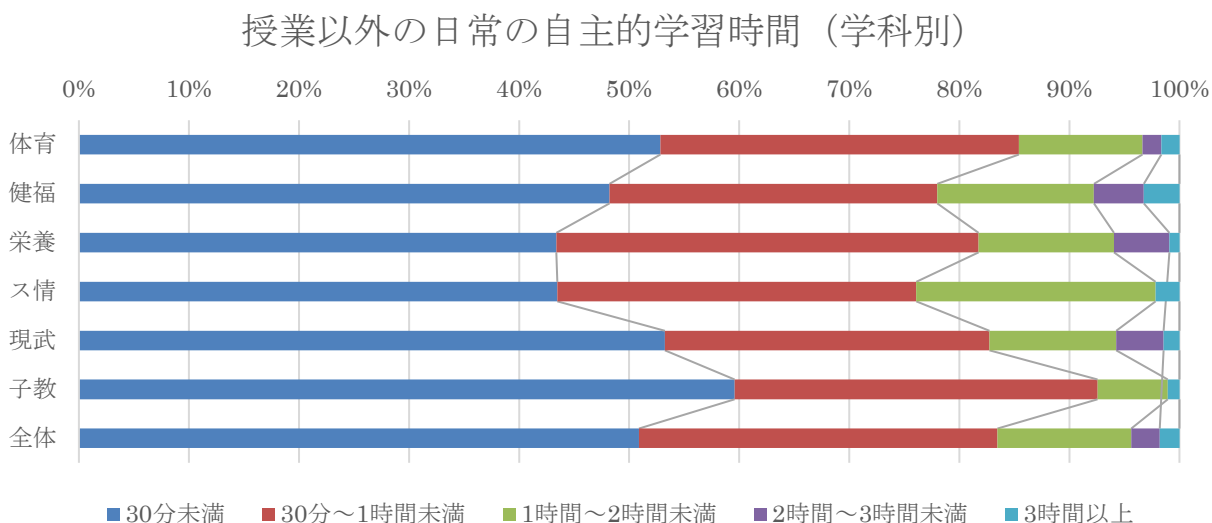


図2. 一日の自主学習時間（学科別）

・学年別の運動時間についての結果を図3に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学年と運動やスポーツ活動の時間には関連性があるといえる。残差分析の結果、30分未満と回答した学生の割合は4年生で有意に高くなった。また、4年生で2～3時間未満、3時間以上と答えた割合は有意に低くなった。3時間以上と回答した学生の割合は1年生が有意に高くなった。

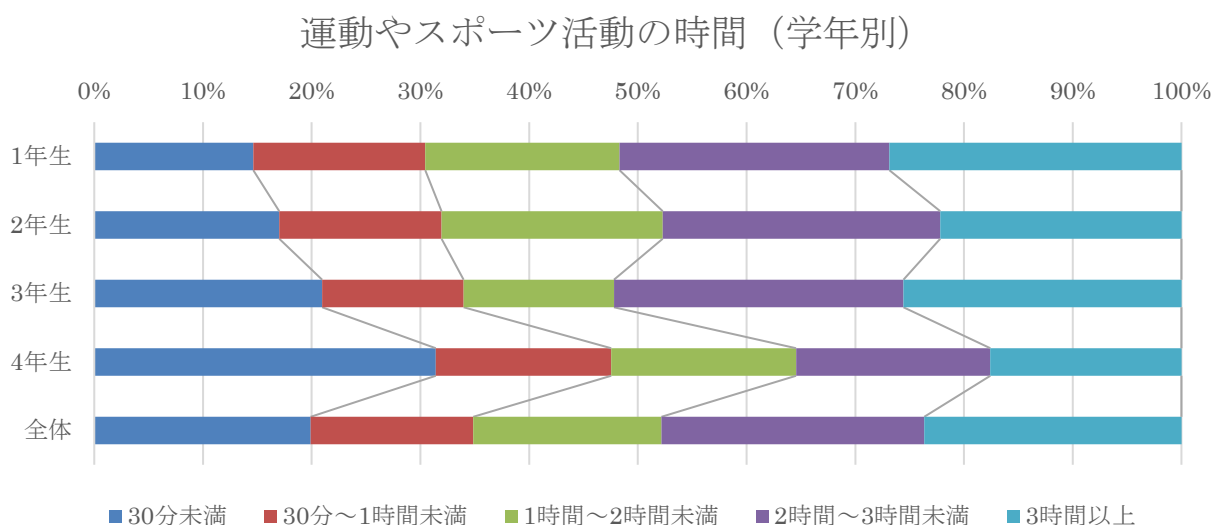


図 3. 一日の運動やスポーツ活動時間（学年別）

・学科別の運動時間についての結果を図4に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学科と運動やスポーツ活動の時間には関連性があるといえる。残差分析の結果、30分未満と回答した学生の割合は健康福祉、スポーツ栄養学、および子ども運動教育学科において有意に高くなった。一方、2時間～3時間未満、3時間以上と回答した学生の割合は体育学科で有意に高く、2時間～3時間未満は現代武道学科においても有意に高くなった。

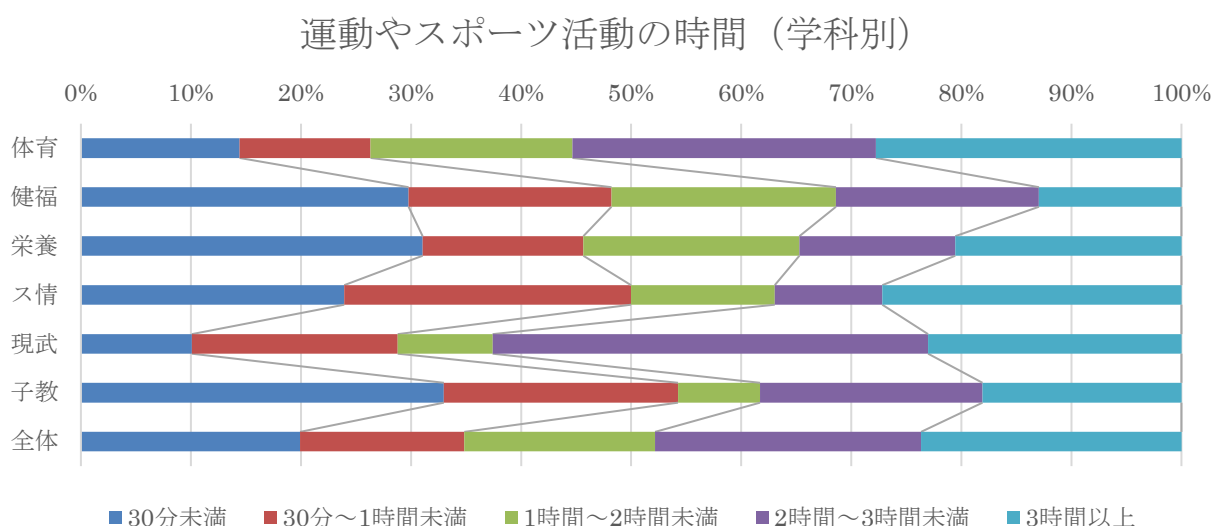


図 4. 一日の運動やスポーツ活動時間（学科別）

・大学での学習の目標についての学年別における結果を図5に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学年と大学での学習目標には関連性があるといえる。残差分析の結果、「専攻する領域に関連する資格・免許を取得する」と回答した学生の割合は年次が上がるにつれて有意に低くなった。一方で「幅広い教養を身につける」と回答した学生の割合は1年生が有意に低く、4年生が大きくなった。

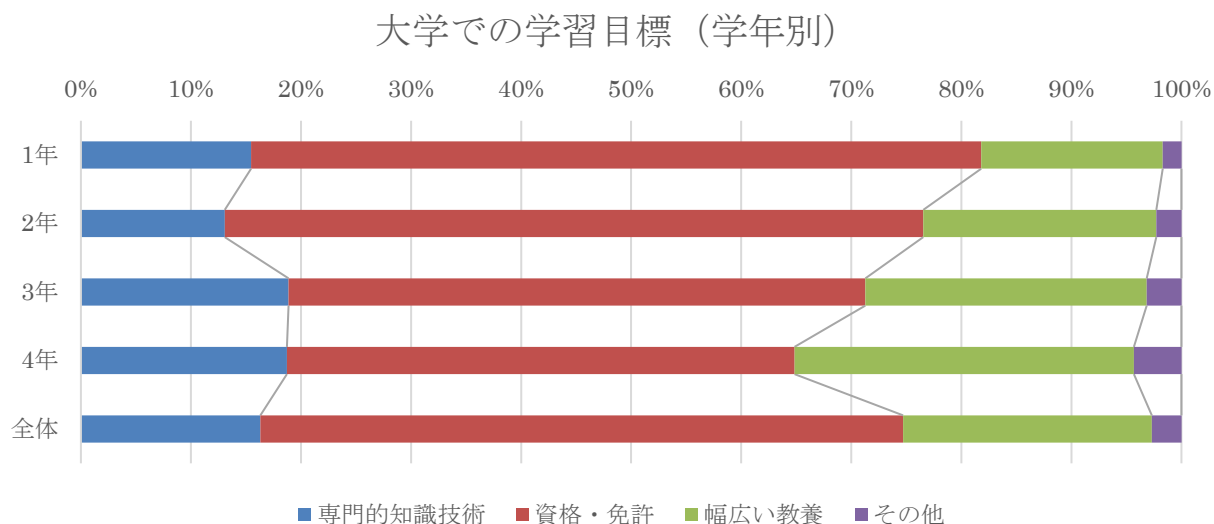


図 5. 大学での学習目標（学年別）

・大学での学習の目標についての学科別における結果を図6に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学科と大学での学習目標には関連性があるといえる。残差分析の結果、「専攻する領域の専門的な知識や技術を身につけること」と回答した学生の割合は体育学科、スポーツ情報マスメディア学科で有意に高くなった。「専攻する領域に関連する資格・免許を取得する」と回答した学生の割合と回答した学生の割合は健康福祉学科、スポーツ栄養学科、子ども運動教育学科で有意に高くなった。

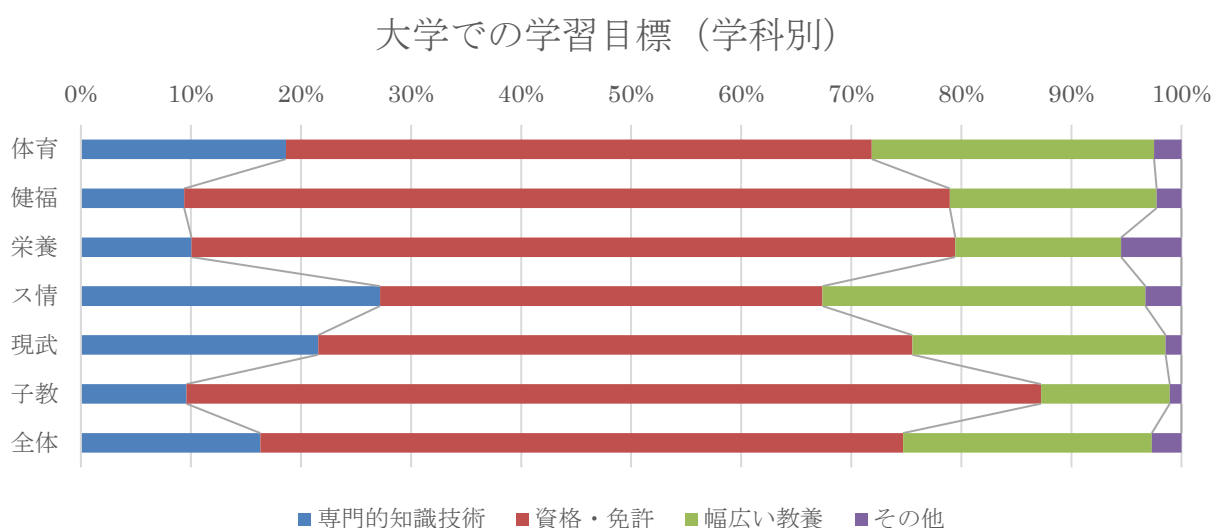


図 6. 大学での学習目標（学科別）

3. 高校3年時の学習時間と運動時間について

・学年別の高校3年生の時の自主学習時間についての結果を図7に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられなかった。よって学年と高校3年時の自主的学習時間には関連性があるとはいえない。

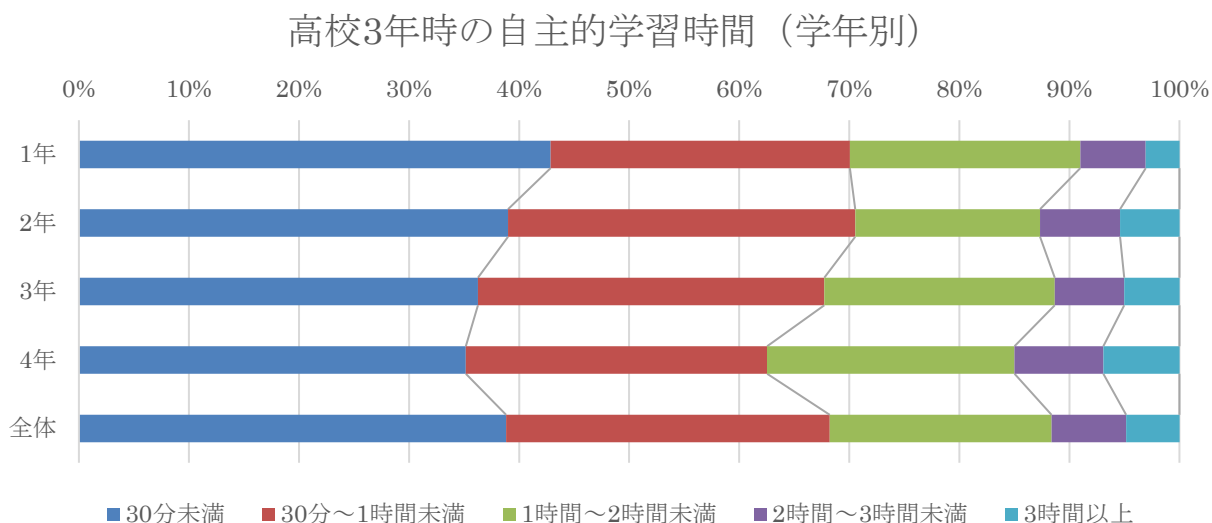


図7. 高校3年生時における一日の自主学習時間（学年別）

・学科別の高校3年生の時の自主学習時間についての結果を図8に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられなかった。よって学科と高校3年時の自主的学習時間には関連性があるとはいえない。

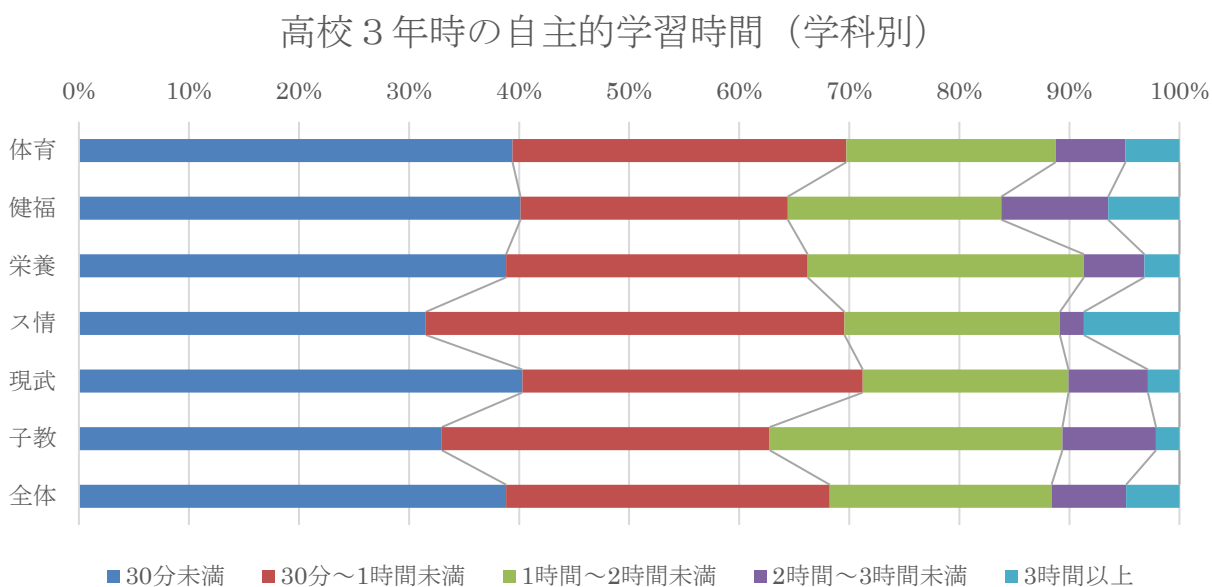


図8. 高校3年生時における一日の自主学習時間（学科別）

・学年別の高校3年生の時の運動・スポーツ活動時間についての結果を図9に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学年と高校3年時の運動・スポーツ活動時間には関連性があるといえる。残差分析の結果、30分～1時間未満と回答した学生の割合は3年生が有意に高くなった。2時間～3時間未満と回答した学生の割合は2年生が有意に高くなり、4年生が有意に低くなった。

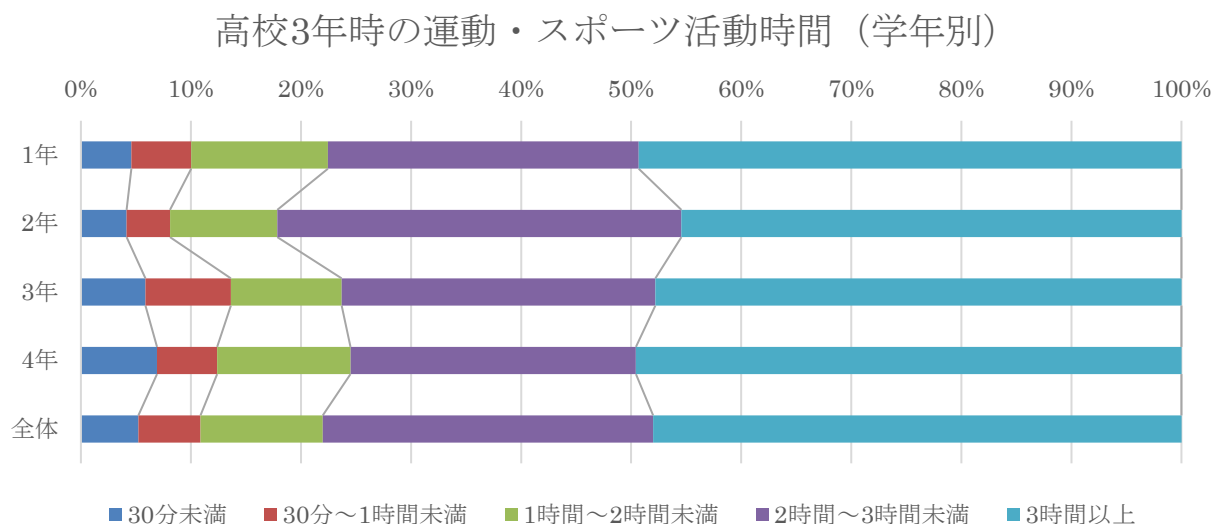


図9. 高校3年生時のスポーツ活動時間（学年別）

・学科別の高校3年生の時の運動・スポーツ活動時間についての結果を図10に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学科と高校3年時の運動・スポーツ活動時間には関連性があるといえる。残差分析の結果、30分未満と回答した学生の割合は健康福祉学科、スポーツ栄養学科で有意に高くなり、体育学科で有意に低くなった。3時間以上と回答した学生の割合はスポーツ情報マスメディア学科で有意に高くなり、スポーツ栄養学科で有意に低くなった。

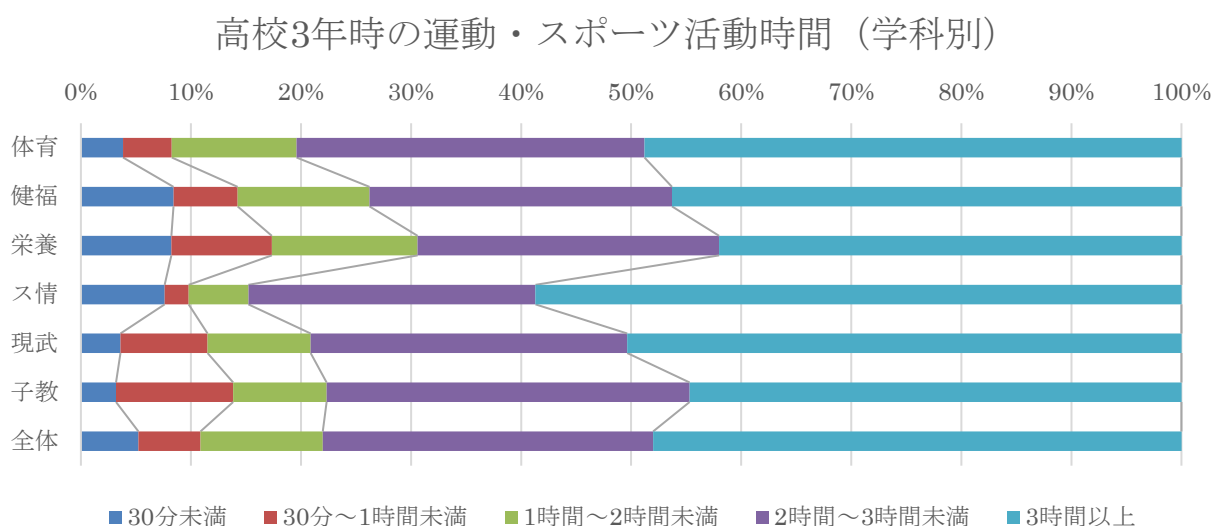


図10. 高校3年生時のスポーツ活動時間（学科別）

4. 卒業後の進路の希望について

・学年別の卒業後の進路の希望についての結果を図11に示した。 χ^2 乗検定の結果、5%水準で有意差がみられた。よって学年と進路希望先には関連性があるといえる。残差分析の結果、「スポーツに関わる職業」と回答した学生の割合は1年生が有意に高く、4年生は有意に低くなった。「一般企業（大学での専攻領域に特にこだわらない）」と回答した学生の割合は学年が上がるにつれて有意に高くなった。反対に「教員あるいは保育士」と回答した学生の割合は学年が上がるにつれて有意に低くなった。

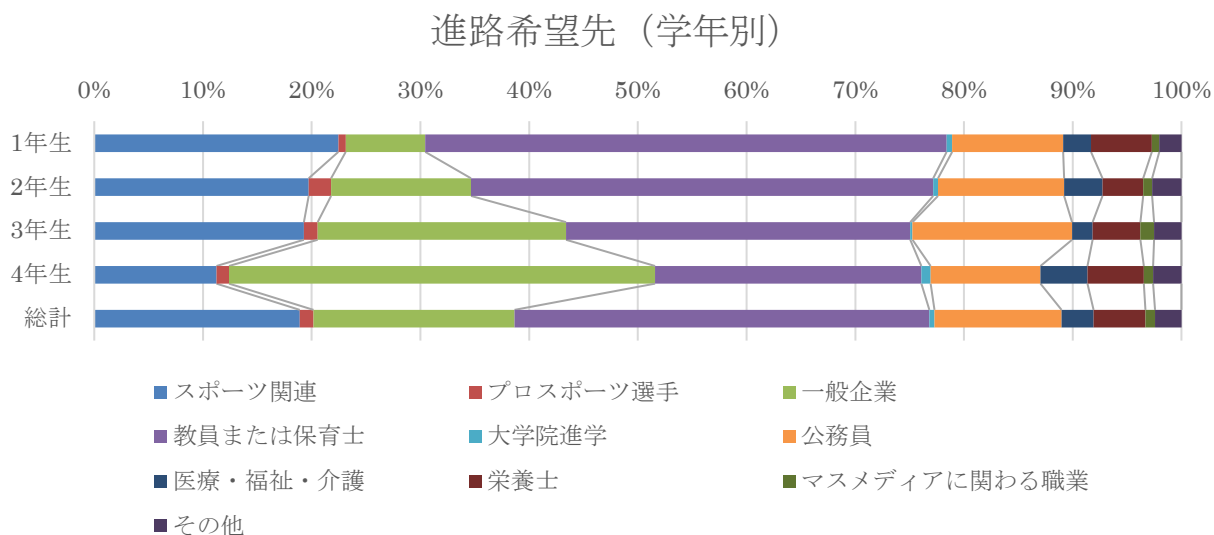
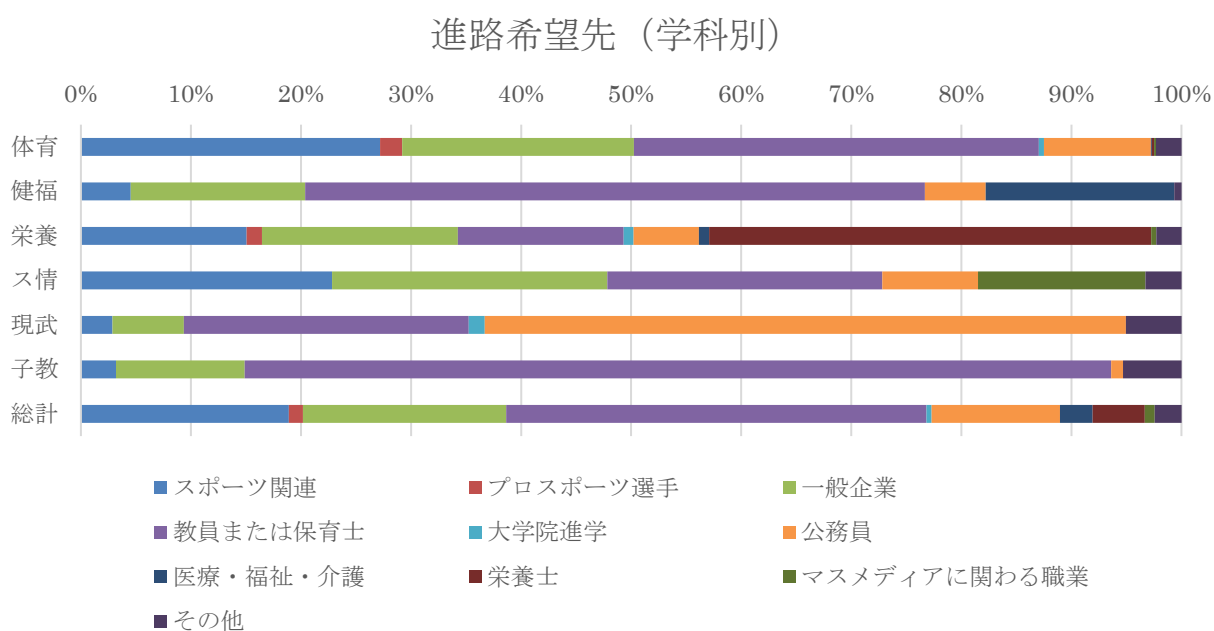


図 11. 卒業後の進路希望（学年別）

・学科別の卒業後の進路の希望についての結果を図12に示した。本データは個々の学科の特色が色濃く出ており差が大きいため χ^2 乗検定は行っていない。例年通り、体育学科はスポーツ関連・スポーツ選手、健康福祉学科は医療・福祉・介護と学科ごとの特徴がでている。全体的には教員または保育士の割合が大きくなった。



5. まとめ

- ・本アンケート調査は回答率が約73%と去年の約90%以上と比べると低くなったが、十分に本学学生の状況を反映しているものと考えられる。
- ・全体を学年中心にみたとき、昨年と同様に学年が上がるにつれて、学習時間の増加および運動時間の減少がみられた。大学での学習目標については資格や免許の取得を目標とする割合は1年がもっとも高く、年次が上がるにつれて低下している。年次が上がるほど専門的知識技術や幅広い教養にシフトしていく傾向がみられた。卒業後の進路希望については1年生でスポーツ関連は高いが4年生はその割合が低くなっている。また、教員または保育士は1年生の割合は高いが年次が上がるにつれて低下している。その低下の割合に比例するように一般企業希望の割合は年次が上がるにつれて高くなる。
- ・全体を学科中心にみたとき、学習時間は健康福祉学科、スポーツ情報学科、スポーツ栄養学科の学生が比較的多くの時間を確保している傾向がみられた。運動時間は体育学科、現代武道学科の学生が比較的多くの時間を確保している。これらは学科の特徴を表していると思われる。大学での学習目標は免許・資格の割合がスポーツ栄養学科や子ども運動教育学科で高く、免許・資格取得が前提の学科の特徴を表していると示唆される。進路希望についてはスポーツ栄養学科の学生の4割ほどが栄養士を希望している、体育学科はスポーツ関連を希望しているなど学科の特色が出ている結果がみられた。また公務員、教員または保育士は学科を問わず一定の希望者がいることが明らかとなった。

以上